

アスパラガス

春どり栽培・立茎春夏どり栽培 管理情報

福光農業協同組合
富山県砺波農林振興センター

1 茎枯病対策

収穫残茎や地表面で越冬する茎枯病菌の密度を下げるために、ほ場が乾いた状態の時、株元及びほ場全体の地表面をバーナーで焼却する。

その際には延焼や農作業事故に注意する。

特に、株元は黒く焦げるまでしっかりと焼却する。
また、刈り取った残渣等があれば、全てほ場外に持ち出す。



2 立枯病対策

(1) 薬剤の灌注

昨年、立枯病が発生したほ場では、速やかに以下の薬剤を灌注する。

薬剤名	希釈倍率	使用方法	使用時期	使用回数
トリフミン水和剤	1,000 倍	3ℓ/㎡灌注	収穫 7 日前まで	1 回

(2) 排水対策

ほ場に雨水が停滞しないよう、排水溝の手直しを行う。



排水溝は、再度掘り直し、排水口に確実につなげる

立枯病とは

【発生の特徴】

- ・排水の悪いほ場で発生が多い。
- ・新植 2 年目くらいから発生が見られる場合が多い。
- ・栽培年数が進むほど、発生割合が高くなる。

【被害の様子】

- ・若茎が曲がったり、やや黒ずんでしなびた様になる(裏面、写真 1)。
- ・摘芯位置や若茎に白いカビが生じる。
- ・欠株が発生する(裏面、写真 2)。

裏面あり



写真 1 若茎がしなびた様子



写真 2 欠株の様子

3 雑草対策

(1) 雑草茎葉散布

現在、雑草が発生している場合は、以下の除草剤を散布する。
ザクサ液剤 10a 当たり薬量 500ml 希釈水量 150ℓ
(萌芽前、雑草生育期、2 回以内)

又は

プリグロックス L 10a 当たり薬量 1,000ml 希釈水量 150ℓ
(萌芽前、雑草生育期:草丈 20cm 以下、3 回以内)

(2) 全面土壌散布

前述(1)の散布後、雑草の発生を抑制するため、以下の除草剤を散布する。
トレファノサイド乳剤 10a 当たり薬量 300ml 希釈水量 100ℓ
(萌芽前、雑草発生前、1 回)

4 施肥

融雪直後から萌芽 15 日目までに
春肥を施用する。

10 a 当たり施肥量(kg)	
苦土石灰	50
石灰窒素	40
鮮菜 200	25

5 ネキリムシ類対策

ネキリムシ類が発生した場合は、以下の薬剤を株元に散布する。
ガードベイト A 10a 当たり 3 kg(収穫前日まで、3 回以内)

6 収穫中の注意

- ・凍霜害に遭ったアスパラガスは、次の萌芽の妨げとなるため、早期に収穫する。
- ・収穫中に乾燥が続く場合は、かん水を行う。

(問い合わせ先)

J A 福光 営農部 営農指導課 (高田) (電話番号 0763-52-4153)
砺波農林振興センター 園芸振興班 (石川) (電話番号 0763-32-8112)